

令和7年度 学校法人アルウィン学園 事業報告

ひとりひとりを大切にしたい そしてその育ちを支えたい その思いがアルウィン学園の教育の原点です

1. 学園概要

設立 大正5年(1916)2月

設置する部門(2部門)

育成部門	玉成保育専門学校	校長	藤岡 郁子
保育部門	こどもの木かけ		
	玉成幼稚園	園長	関本 泰子
	野のはな空のとり保育園	園長	大澤 千佳子

2. 事業報告

【育成部門】

《玉成保育専門学校》

1. 教育の質保証

2025年度も玉成幼稚園と野のはな空のとり保育園の協力を得て、学生は実習前に、必ずプラクティカルスタディに入ることで、子どもたちと直接関わり、年齢別の接し方や自分なり子どもたちとの向き合い方を体験して実習に臨むことができた。

2. 学生募集の強靱化

学校の健全な運営のために学生数の確保が必須であるにも関わらず、2026年度の新入生は24名と激減した。今までの学生募集を抜本的に見直す必要があり、次年度募集に向けてコンサルタントを導入し、HPも刷新する。

3. 学生指導と保護者連携

導入したスマホアプリ MyiD(マイディ)で各授業の出席確認をしているが、通信環境の悪さやギガ不足でMyiDのみの出席管理ができていない。授業資料の共有など、ペーパーレス化も講師の依頼で紙での印刷となり、実現できていない。ただし、保護者には入学式で、このアプリの導入を依頼しているので、連絡は学生に印刷物を渡すのではなく、アプリを使用して行えるようになった。別途、欠席の多い学生、留年生には直接保護者に電話を掛け、保護者と共有し、学生指導をしている。

4. 地域・社会との連携と社会貢献

杉並区にある専門学校として、地域社会の発展に貢献し、地域社会に信頼される知的交流の拠点になるために、杉並区子ども家庭部保育課からの依頼に応え、卒業生の中で、杉並区で働く保育士との交流会を開催した。また、西荻地域区民センター協議会のボランティア活動にも学生と共に積極的に参加した。

【保育部門】

《 玉成幼稚園 》

1. 建学の精神を礎に、保育の学びを深め、保育の質の向上に努め、実践していく。
 - ・幼稚園教育要領・新キリスト教保育指針を基に教育課程見直し編成した。

教育課程を土台に、年間・月案・週案・日案を学年ごとに指導計画を立て、月1度の全体会で丁寧に話し合わせ、日々の実践へとつなげた。

また、今年度は創立者アルウィン先生の理論と実践を、目白大学・小林祥子先生から講義を受け、特に子どもの豊かな感性を育てるために、子どもの無意識の直感をも感じ取るために、常に「感動する人になりなさい」との教えを知り、環境や自然との関わり、その日その日に新鮮な出会いがあることを覚え、教師は多様な遊びの芽があるように環境構成を工夫した。

 - ・教師は教育の専門家としての認識をもち、より質の高い教育の実践を求めて外部・内部研修に参加した。特に内部研修では平山先生、友野先生に月1回の研修をお願いし、保育の充実に努めた。
 - ・私学助成園から施設型給付園への移行期間で、杉並区と協議しながら申請手続きを行い、2月には2026年度からの新しい給付制度へと移行申請が受理された。保育の質向上のためにも、給与改善や人員配置の加算は必要と感じる。
2. 良好なコミュニケーションと意欲を持てる働きやすい職場体制づくり。
 - ・朝は祈りの時間から始め、それぞれの思いを受け止め、信頼しながら保育を始めた。

また、互いの個性を尊重し 認め合い、職位に捉われず意見を出し合える職場づくりに努めた。

自己評価の結果を踏まえ、教職員全体で話し合い、より良い保育を行えるよう努めた。

 - ・「変形労働制」を導入し、ワークライフバランスの実現に努めた。残業をなくし、有給消化、休暇、研修参加を確保できるよう業務改善に努めた。若い先生方の力を借り、ICT化を積極的に進め、仕事の効率化を図った。
3. 子ども支援・保護者支援を行う。
 - ・日常的に保護者とのコミュニケーションをとり、園に対する思いや子どもに対する悩みなどを早期に受け止め解決できるよう取り組んだ。
 - ・園だよりや懇談会、個人面談、保育参観、行事を活用し、子どもの成長を保護者に伝えると共に、園の考え方も丁寧に伝え、連携できるようにした。

園だより等手紙類、保育の活動様子は、アプリを使用し発信した。

 - ・個別支援の必要な子に関しては、指導計画作成し、丁寧な記録をとり、ケースカンファレンスを行い、援助のポイントを理解し子どもと関った

杉並区の子ども支援センターとも連携を図り、年に6回指導を受けた。

 - ・社会状況の変化と共に、生活様式の多様化する中、その状況に柔軟に対応できる体制作りを考えた。短時間保育の時間延長・預かり保育の長期休暇の実施・長時間保育の見直しでは、途中から仕事等はじめられた方の受け入れも行った。また、海外から帰国した子どもの短期入園も受け入れた。

《 野のはな空のとり保育園 》

1. こどもの木かげの基本理念を踏まえた保育を実践するため、職員の資質向上と専門性の向上に取り組む。
 - ・各プロジェクト(空間遊具・わらべ歌・食育・運動あそび)における学びの積み重ねは、園全体での共有によって、職員全体の遊びのバリエーションが広がり、保育の充実につながることができた。
 - ・年3回の杉並区による巡回心理相談に加え、応用行動分析に基づいた子ども理解と保育支援の研修を重ねた。個別性が求められる保育の現場で、子どもへのより質の高い関わりと保育への取り組みを進めることができた。
2. 保育実践の記述の学びを継続し、保育を可視化するとりくみを続ける
 - ・ICTを活用しながら、各園児の連絡帳には写真付きのエピソード、園だよりには各クラスの今を伝えるエピソードを、その日の保育の様子は、ドキュメンテーションとして各クラスの掲示スペース等へと、可視化に努めた。適切な字数の中でいかに伝えるかに腐心した。
3. 園の保護者と地域の子育て家庭に向けた子育て支援にとりくむ
 - ・在園児保護者のニーズが多様であることを踏まえ、より個別性を大切にしたい支援を心がけた。連絡帳や送迎時でのやりとりを丁寧に行い、子どもの育ちや子育ての喜びを共有し、面談を通して不安や悩みについて一緒に考えていく等、信頼関係を築くべく努めた。懇談会では保育の様子を動画で説明を加えながら紹介し、保育参加では実際の保育を体験してもらうことで、園生活への理解が深まったと好評であった。
 - ・地域の子育て支援は、すでにある親子ひろばに加えて《保育園の生活体験》を実施、園生活の流れ・遊び・食事にふれる体験から多くの気づきが与えられたと好評だった。ひろば・体験のいずれも保育・栄養・保健の専門職が保護者の相談支援にもあたった。

<保健>

- ・保育士と協力し、保育園でのケガや感染症の広がりを予防した。
- ・地域支援の親子ひろばの健康相談を担当し、支援を行った。
- ・保健だより発行し、保護者への健康に関する情報提供に努めた。
- ・職員のストレスチェックを行った。

<厨房>

- ・咀嚼を促す援助をテーマに献立作りを行い提供した。食事中の子どもたちの様子を観察し、さらに調理方法にも工夫を加えた。
- ・保育園給食・離乳食体験は保護者からの反響も良かった。
園児保護者には園で提供している食事を知り、安心する機会となり、地域からの参加者には、乳児期の食への関心が増し、日々の食生活の見直し、より良い食づくり実践に向かう機会ともなった。

学校法人アルウィン学園役員並びに評議員

理 事（定数：5名 任期：令和7年5月24日～11年度定時評議員会終結時）

	役 職	氏 名	選任条項	備 考	
	理事長	藤岡 郁子	第15条第2項	理事のうちから理事会の決議	1名
1	理 事	藤岡 郁子	第8条第1項第1号	校長のうちから理事会において選任	1名
2	理 事	野崎 能成	第8条第1項第2号	理事会において選任した者	4名
3	理 事	茂井 万里絵			
4	理 事	大川 洋			
5	理 事	松田 雄年			

監 事（定数：2名 任期：令和7年5月24日～11年度定時評議員会終結時）

1	監 事	阿部 豊太郎	第23条第1項	評議員会の決議	2名
2	監 事	寺沢 剛			

評 議 員（定数：6名 任期：令和7年5月24日～11年度定時評議員会終結時）

1	評議員	関本 泰子	第32条第1項第1号	この法人の職員で評議員会において選任した者	2名
2	評議員	大澤 千佳子			
3	評議員	小松 寛之	第32条第1項第2号	この法人の設置する学校及び幼稚園を卒業したもので、年齢25年以上の者のうちから、評議員会において選任した者	1名
4	評議員	西川 涼	第32条第1項第3号	学識経験者のうちから、理事会において選任した者	3名
5	評議員	加藤 正克			
6	評議員	花井 香			